

はまかせ

風が囁くお知らせ便り♪

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。



nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

Message メッセージ

脳神経外科診療の現況

頸部頸動脈狭窄症について

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびようTopics

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入しました

■祝 病院ボランティア50周年

副院長兼看護部長 足立育子

■院長エッセイ「四季雑感」

冬を凌ぐ

■医療技術NOW!

脳梗塞に対する脳血管内治療

■絵の中の風景を旅するvol.13

にしびよう美術館館蔵品を毎回紹介



脳神経外科診療の現況

脳神経外科部長: 榊 孝之



頸部頸動脈狭窄症に対して

脳 梗塞、特に、アテローム血栓性脳梗塞は、日本人の食生活の内容が年々欧米化するにしたがい徐々に増加傾向を示しています。その原因として、頸部頸動脈狭窄症があげられます。頸部頸動脈狭窄症とは、頸部の頸動脈分岐部に動脈硬化性粥状変化により血管の狭窄を生じ、これが原因で脳血流量の低下をきたしたり、頭蓋内塞栓の原因となったりして脳梗塞を起こす原因となりうる疾患です。

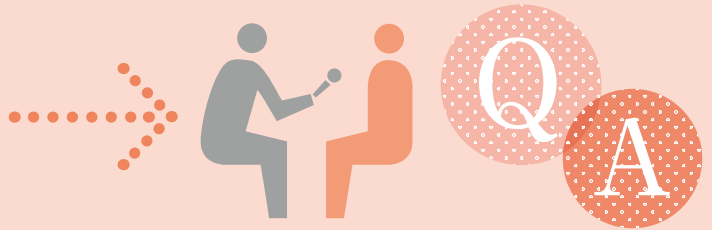
狭窄の程度が強くなると、その後の脳梗塞を予防するために外科的治療が、必要になります。その標準的治療は頸動脈血栓内膜剥離術(CEA)です。このCEAに関しては、欧米を中心に大規模な多施設共同研究がなされ内服薬のみで治療する方法と(内科治療)、CEA(外科治療)ではその後の脳梗塞の発症予防としてはCEAの方がすぐれているという結果が出ています。このためわが国でも広くCEAは行われており、当院でも積極的に行っています。また、近年、CEAの手術リスクが高いと考えられたり、麻酔のリスクが高いと考えられたりする患者さんに対しては頸動脈ステント留置術(CAS)という血管内治療も行われるようになり、当院でも専門外来を開設しました。



(図: CAS前後の頸動脈撮影、ステント)

頸 部頸動脈狭窄症の診断には、頸部血管超音波検査が有用です。動脈硬化を生じやすい生活習慣病のスクリーニングとして、同検査は、幅広く実施されています。著明な狭窄病変が認められる場合、また塞栓源となりうる不安定プラーク、潰瘍形成を伴うプラーク病変を認めた場合、脳神経外科外来を紹介受診していただいています。これからも、地域のニーズに合わせ、脳卒中の予防に努めていきたいと思えます。

脳神経外科について質問!
INTERVIEW



Q SCUってなんですか?

A SCU (stroke care unit) とは脳卒中ケアユニットといい脳卒中の発症直後から急性期の患者さんの適切な治療とリハビリテーションを組織的・計画的に行なう脳卒中専用の治療病棟です。当院では8階に3床設置し、脳卒中専門医を含む脳外科医、内科医が24時間常駐し、発症直後の患者さんを受け入れ、迅速な診断・治療を始めます。

Q 脳卒中について教えてください!

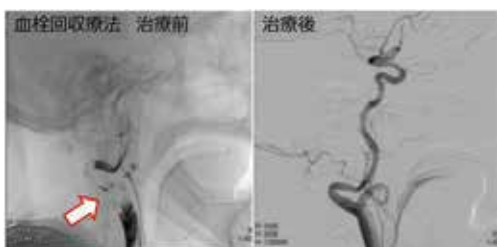
A 脳卒中は現在脳血管障害という名で呼ばれています。この病気は脳の血管になんらかの障害がおこることによって発病し、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血に分類されます。超高齢社会により脳卒中の患者数は増加傾向にあります。脳卒中の可能性が高い5つの症状として①突然に手足が動かない、しびれる ②片目が見えにくい、見える場所が狭い ③話せない、理解できない ④ハンマーで殴られたような頭痛、嘔吐 ⑤めまいと身体的不安定感、突然倒れるがあります。またこれらに伴い意識障害が表れることがあります。突然このような症状がある場合には、早めに受診することをおすすめします。

(脳神経外科病棟 看護師長 森田 康子)

最新情報

脳梗塞に対する脳血管内治療

脳梗塞急性期治療の標準治療であるtPA静注療法は、2012年より発症4.5時間へと適応が拡大されましたが、著効例は3-4割とされています。脳主幹動脈閉塞では脳血管内治療による血栓回収療法との併用がtPA静注療法単独よりも良好な転帰が得られると複数のRCTで示されました。また、脳梗塞予防においても頸動脈狭窄症に対するステント留置術が外科的手術と遜色ない成績が報告されています。



(脳血管内治療専門医 浅井 克則)

スタッフ紹介



前列左から

- 山本 綾 (脳神経外科医長)
- 榊 孝之 (脳神経外科部長)
- モリス シェイン (脳神経外科医長)

後列

- 脳神経外科病棟 (8F) スタッフ

手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を導入しました

ダ・ヴィンチ手術は、医師が専用の操作機器を介して行う先進のロボット手術です。従来は二次元であった手術画像が、三次元の立体画像を映し出すことで、ロボットアームにより精度の高い腹腔鏡手術を行うことができます。患者さんには、傷口が小さい、出血量が少ない、術後の疼痛の軽減など、より一層負担の少ない手術が可能となりました。当院では引き続き、高度医療の充実を図っていきたいと思います。

(総務部総務課：細谷 昌弘)



祝 病院ボランティア50周年



兵庫県立西宮病院 病院ボランティアグループの皆様、設立50周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

あわせて、永年にわたる皆様方のご貢献に対し、深く感謝申し上げます。

兵庫県立西宮病院 病院ボランティアグループは、県立病院群のボランティアグループの中でも、いち早く活動を開始されました。

患者さんの外来受付補助や入院病棟へのご案内、病棟図書コーナーの運営、病院周辺花壇の維持管理、玄関ホールにおける四季折々の飾り物の展示、車椅子や布製資材の修理・修繕など、皆様の経験や得意分野を活かした、細やかで丁寧な関わりにより、患者サービスの向上に多大なる貢献をいただいています。

ピンクのエプロンと皆様の笑顔に、患者さん、病院職員ともども、どれほど癒やされ、元気づけられ、勇気をいただいたかしれません。

皆様の病院ボランティア活動が、患者さんに西宮病院を身近なものにし、病院と地域、地域と病院を繋ぐ重要な役割を果たされてきたことは言を俟たず、病院職員一同、改めて感謝の意を表します。

地域住民の皆様から信頼され、安心してかかる病院づくりを進めていくためには、皆様のお力添えは欠かせません。健康に留意され、兵庫県立西宮病院 病院ボランティアグループの活動が、今後60周年、70周年と、永続することを祈念いたします。

(副院長兼看護部長：足立 育子)

四季雑感



そ れは寒さが身に伝えますよ
当院でも屋外で仕事をいただいている方に、「寒さと暑さとは、どちらが辛いですか?」とお聞きした時、このような答えが返ってきました。温かい屋内から薄着で迂闊に極寒の屋外へ出ると、心臓がどきどきして脳の血管が詰まるように感じた経験はどなたでもあると思います。寒冷は私たちが想像する以上に身体にストレスを与えますが、とくに循環器系への悪影響が大きいです。

病院の経営にとって「冬の時代」がやってきそうです。膨らんだ医療費を抑える政策が進められており、どの病院でも経営が厳しくなっています。このような状況で、西宮病院では「数字をささえる体力」をつけたいと考えています。例えばよくないかもしれませんが、マラソンランナーが、過度の練習から頬がこげ、足の骨は疲労骨折寸前になりながら、ストップウォッチ片手に秒を刻んで記録を更新して

いる様は、決して体力があるとは思えません。

このような「数字をささえる体力」を培うためには、院内環境を少しでも良くしていくことに加えて、職員間のコミュニケーションを緊密におこなうことによって、患者さんへのサービス向上に向けた不断の努力が必要ではないでしょうか。その上で地域の医療施設や救急隊から診療の依頼があれば、より積極的に受け入れる体制作りを目指したいと考えています。

もちろん患者さんサービスにとって、最も重要なのは医療の質であることは言うまでもありません。現代社会では生活習慣病の予防と治療が大きなテーマとなっており、動脈硬化症が引き起こす血管病対策が大きな柱となっています。前々回の「はまかぜ11号」では循環器内科、今回の「はまかぜ13号」では脳神経外科の血管内治療を取り上げていますが、西宮病院では地域と連携して心筋梗塞や脳卒中などの予防と治療に努めてまいります。



兵庫県立西宮病院 院長
河田 純男

医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

【中心静脈カテーテル挿入認定医師システム】

中心静脈カテーテル(以下C Vカテーテル)挿入は危険を伴う処置の一つであり、5~10%の確率で合併症が発生すると言われています。当院では2014年8月に発生したC Vカテーテル関連のインシデントをきっかけにC Vカテーテルチームが発足しました。チームは医師6名、看護師1名、放射線技師1名、医療安全担当者1名の9名で構成され、チームの目的は安全なC Vカテーテル挿入、管理を行なう事です。具体策として院内マニュアルの作成とC Vカテーテル挿入医師認定制度の立ち上げが決まりました。2015年10月現在、C Vカテーテル挿入のシミュレーション研修(写真は研修の様子です)、実技評価を終了した指導医師23名、認定医師4名、認定医師候補24名が誕生し、このシステムは2015年11月より動き始めました。

(医療安全専従看護師長 井上 祥子)



絵の中の風景を旅する vol.13

<http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/>

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200点以上のぼる絵画が飾られています。"にしびょう美術館"の貴重な"館贈品"は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。と一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。



展示場所

本館6階
エレベーターホール



痩せた騎士の影絵とポッチャリとした女性(少女?)を対比させた絵画。彼女の憧れの人物なのだろうか、指をくわえながらじっと見つめている。何かほのぼのした、とてもユーモラスな絵だ。この絵の上段に描かれている言葉は不明で解らないが、下段に描かれている「コンスエグラ」はスペインのラ・マンチャ地方にある町で、サフランの産地として有名で、独特の白壁の家や風車が点在する風景が見られる町だそう。昔はこの地方で戦があったかもしれないが、今では、ゆっくり時間が流れるのどかな町ようだ。

(総務部:足立彰久)

お知らせ

11月1日より入院・外来患者さんへ行っていた医療相談室業務を「患者相談」でとりまとめることにしました。

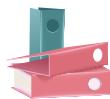
患者・家族さんの療養上のことについて総合的に地域連携センターが相談を行うことにしました。

当院では継続して患者・家族が安心して療養できるよう支援させていただきます。



編集後記

編集室



厳しい寒さが続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。地域の先生方にはいつもご支援ご協力いただきありがとうございます。今回は患者さん来院時にお手伝いしていただいておりますボランティアさんの特集しました。当院の掲げる患者さんへのサービスの向上に長年ご協力をいただいております。本年はオリンピックも開催され日本代表の活躍が期待されますが当院も日本代表に負けぬよう院内のチームワークを強化しワンランク上の病院を目指したいと思います。本年も兵庫県立西宮病院をどうぞよろしく願っています。

(医事企画課:魚崎治郎)

HAMAKAZE
2016
Vol. 13

兵庫県立西宮病院

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594

地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp

2016.2 発行